



# 管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

平成 30 年 4 月  
財務省 中国財務局

(平成 30 年 4 月 24 日公表)

**【お問い合わせ先】**

中国財務局経済調査課(森山、藤田)

電話 (082) 221-9221(代表)  
(082) 223-3038(直通)

Fax (082) 221-3845

<http://chugoku.mof.go.jp/>

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（平成30年1月判断）	今回（平成30年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）平成30年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売やスーパー販売、家電大型専門店販売が好調であるなど回復しつつある。生産活動は、自動車が高操業を維持し、化学が高めの生産となるなど緩やかに回復している。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（平成30年1月判断）	今回（平成30年4月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	→
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
雇用情勢	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	→
設備投資	平成29年度は前年度を上回る見込み	平成29年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	平成29年度は増益見込み	平成29年度は増益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超幅は拡大	「下降」超に転じる	↘
住宅建設	前年を上回る	前年を上回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果に支えられ回復していくことが期待される。ただし、海外経済等の不確実性やそれに伴う為替の動向などを注視していく必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店販売は衣料品等が低調であり、乗用車販売台数は普通車や小型車が新型車効果が一巡した影響などから、前年を下回っている。ドラッグストア販売は日用消耗品、スーパー販売は食料品、家電大型専門店販売は季節家電や白物家電などが好調であり前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 1月、2月の寒波の影響で客数が落ち込み、衣料品を中心に低調となった。(百貨店)
- 自動ブレーキなどの安全機能を装備した車に関心が高いものの、新型車効果の反動減があり販売台数は減少している。(乗用車販売)
- 例年に比べ気温が低く、入浴剤やカイロ等がよく売れた。花粉症の薬や化粧品なども好調である。(ドラッグストア)
- 野菜の相場高によりカット野菜がよく売れた。また、惣菜も売れており、食料品は好調である。(スーパー)
- 寒波の影響で石油ファンヒーターなどの季節家電がよく売れた。また省エネや節水タイプの洗濯機など高機能の白物家電は相変わらず好調である。(家電大型専門店)
- 冷凍食品やパウチ惣菜、揚げ物などが好調である。(コンビニエンスストア)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送機械は、自動車が国内外の需要が堅調であることから高操業を維持している。化学は、国内外において食品包装材向けや建材向けなど、様々な分野で需要が堅調であり、高めの生産となっている。電気機械は、自動車向けの電子部品・デバイスなどが堅調であり、増加している。はん用・生産用・業務用機械は、自動車関連の工作機械などが堅調であり、増加している。鉄鋼は、自動車や建材向けの需要が堅調で増加している。このように、生産活動は、全体では緩やかに回復している。

#### (主なヒアリング結果)

- 国内外のSUV需要が堅調なため高操業が続いており、新車種の受注も好調である。(自動車)
- 他工場から生産移管を受けた車種の生産が本格化しているが、軽自動車の生産は減少している。(自動車)
- 中国など海外向けに食品包装材やトレー用の合成樹脂の需要が高く、増産している。(化学)
- 国内都市部における再開発需要、インドや中国の旺盛なインフラ投資の需要を受けて、建材向けの樹脂原料がフル生産を続けている。(化学)
- 自動車の生産増加や性能向上を背景に、国内外の車載用電子部品の需要が増加し、フル生産である。(電気機械)
- スマートフォン関連の受注が減少し、電子部品・デバイスの生産ペースが落ちた。(電気機械)
- 国内及び北米向けの自動車部品を中心に工作機械の受注が好調で、フル生産の状況が続いている。(生産用機械)
- 国内の自動車向けの薄板が堅調であるほか、東京五輪に向けて首都圏を中心に都市開発やホテル建設が活発化しており、建材向けの形鋼も堅調である。また、造船向けの厚板の受注が回復しつつある。(鉄鋼)

### ■ 雇用情勢 「着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている」

有効求人倍率(平成29年12月～平成30年2月)は1.81倍と、全国の1.59倍と比べ高水準で推移しているほか、新規求人数の増加などから新規求人倍率も上昇している。また、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている。

(参考) 広島県の賃金の動き

現金給与総額(名目賃金)は、平成30年1月で前年同月比▲1.2%と前年を下回っている。

#### (主なヒアリング結果)

- 平成30年春に高校新卒者の採用を計画していたが応募がなく、採用ができなかった。学生は、都市部や大手企業に流れていると思われる。(金属)
- 全体的に人手不足感があるが、特に研究開発等の技術者が不足している。また、物流関連の協会社においても人手不足が深刻化していると聞いており、物流費の上昇を受け入れざるを得なくなっている。(窯業・土石)
- 建設部門で国家資格を必要とする技能職が不足しているが、他社競合もあり募集を行っても補充できず、受注を制限せざるを得ない状況にある。(生産用機械)
- 現場作業員への週休2日制の導入など、働き方改革に係る取組みを推進中であるが、その分人員を増やしていく必要があり、人件費は増加している。(建設)
- 高齢のフランチャイズオーナーが経営する店舗が、後継者の確保が困難だったことから、事業承継できず閉店した。(小売)

- **設備投資** 「平成 29 年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 30 年 1~3 月期
  - 製造業では、石油・石炭などで減少するものの、鉄鋼、自動車などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
  - 非製造業では、運輸・郵便などで減少するものの、電気・ガス・水道、医療・教育などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 自家発電設備の更新を行う。(鉄鋼)
- 発電設備の安全対策や能力増強投資を行う。(電気・ガス・水道)

- **企業収益** 「平成 29 年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 30 年 1~3 月期
  - 製造業では、その他の輸送用機械などで減益となるものの、鉄鋼、生産用機械などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
  - 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融業、保険業」)では、医療・教育、宿泊・飲食サービスで増益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、小売などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- **企業の景況感** 「『下降』超に転じる」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 30 年 1~3 月期
  - 企業の景況判断 B S I は、「下降」超に転じている。なお、先行きは「上昇」と「下降」が拮抗する見通しとなっている。
- **住宅建設** 「前年を上回る」
  - 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅、貸家が増加していることなどから、前年を上回っている。
- **輸出** 「前年を上回る」
  - 管内通関実績(円ベース)でみると、輸出は、自動車、鉄鋼などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、中南米などで増加している。  
 なお、輸入は、原粗油、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、アジアなどで増加している。

### 3. 各都道府県の総括判断

	前回(平成 30 年 1 月判断)	今回(平成 30 年 4 月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は着実に改善しており、人手不足感が広がっている。
島根県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動も総じてみれば回復しつつある。雇用情勢も改善しており、人手不足感が広がっている。
岡山県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→	個人消費は総じて回復しつつある。生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は労働力需給が引き締まっている。
広島県	回復しつつある	回復しつつある	→	個人消費は回復しつつあり、生産活動も回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は緩やかに回復しつつあり、雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。

# 管内経済情勢報告

(平成30年4月)

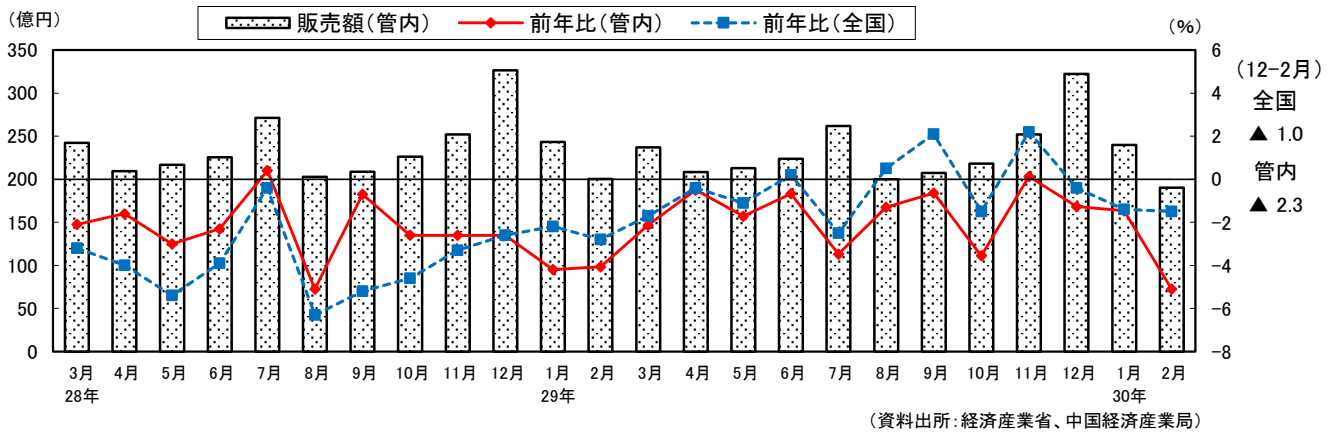
## 資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	6
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

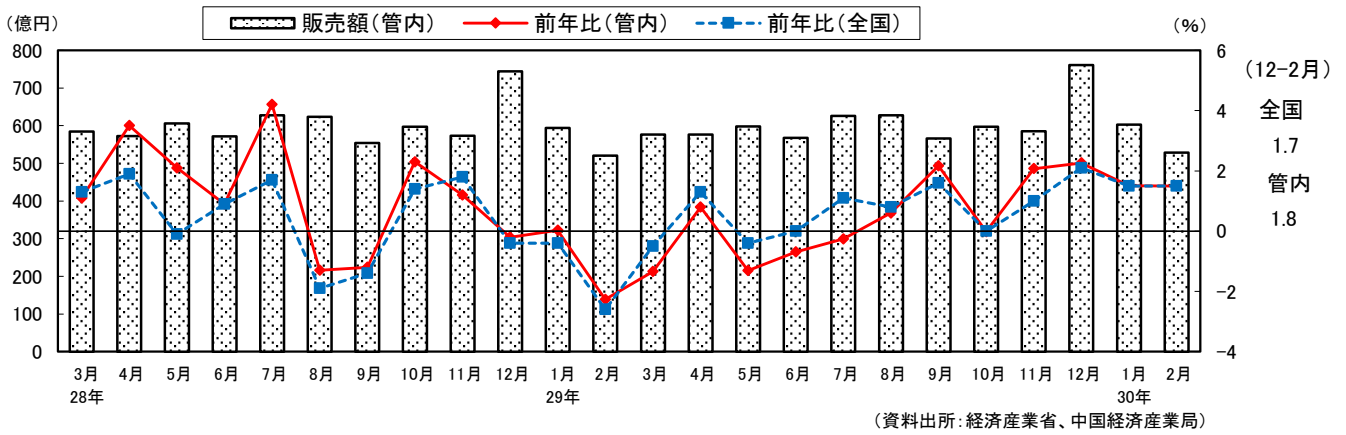
\*上記の項目ごとに掲載しているグラフの枠外（右側）に記載している計数は、当該項目の状況を分析する上で参考とした前年比。（但し、生産活動は鉱工業生産指数及び前期比、雇用情勢は有効求人倍率を記入。）

# 1. 個人消費 回復しつつある

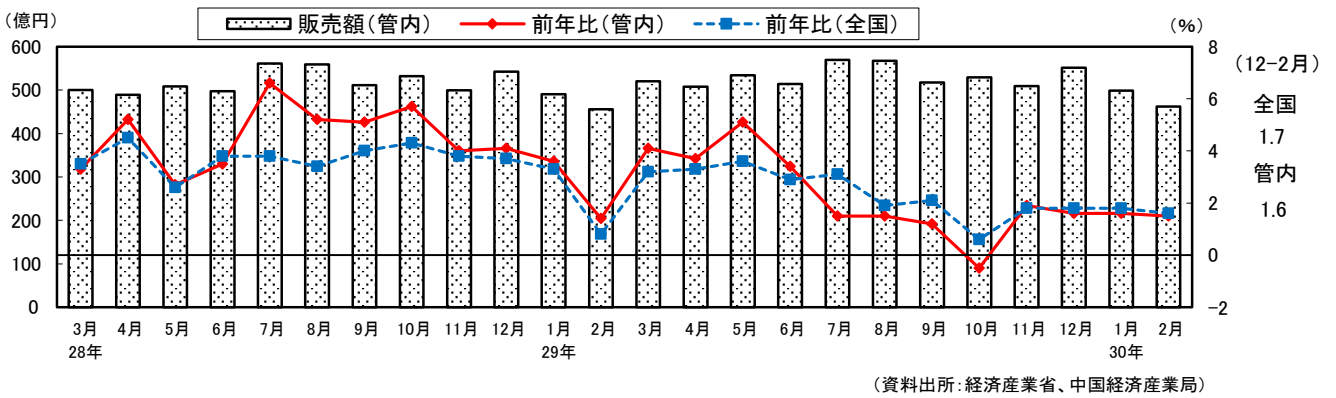
## (1) 百貨店販売額(全店舗)



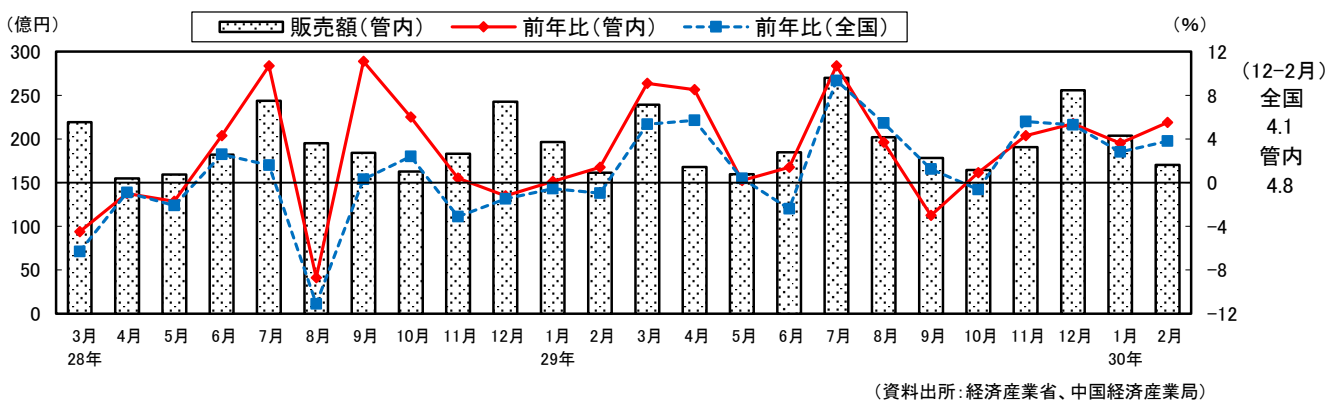
## (2) スーパー販売額(全店舗)



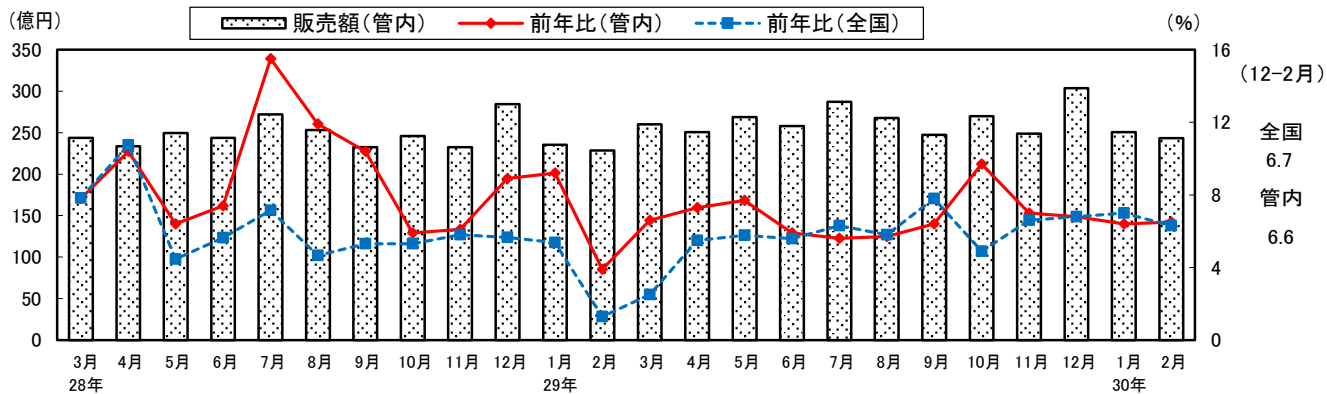
## (3) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



## (4) 家電大型専門店販売額(全店舗)

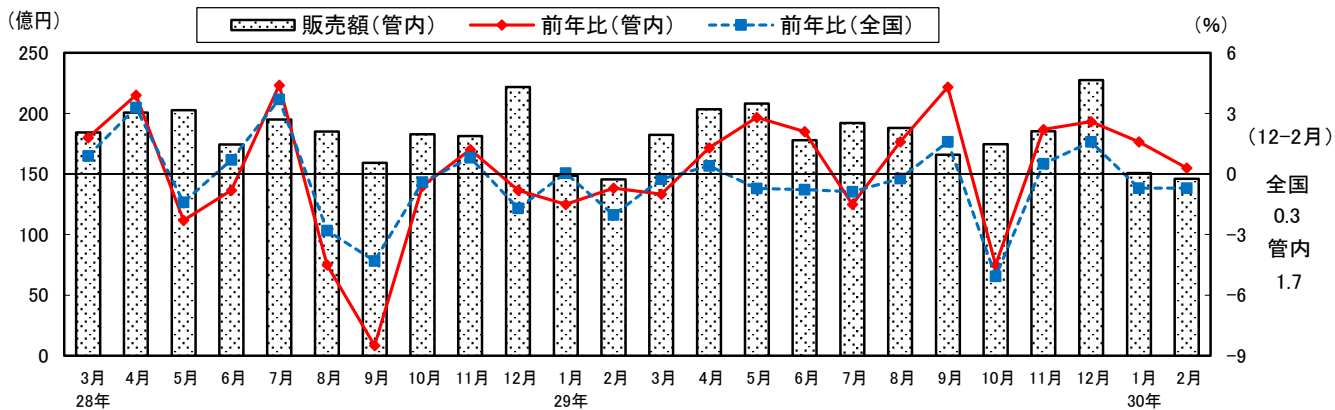


(5) ドラッグストア販売額(全店舗)



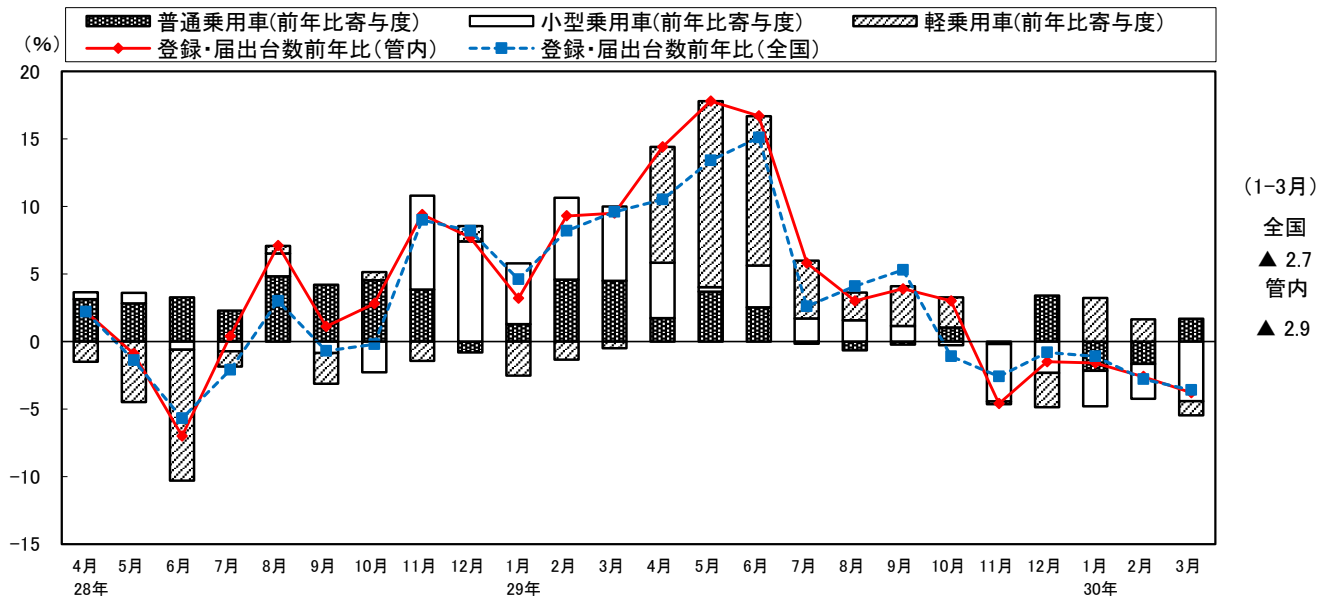
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(6) ホームセンター販売額(全店舗)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

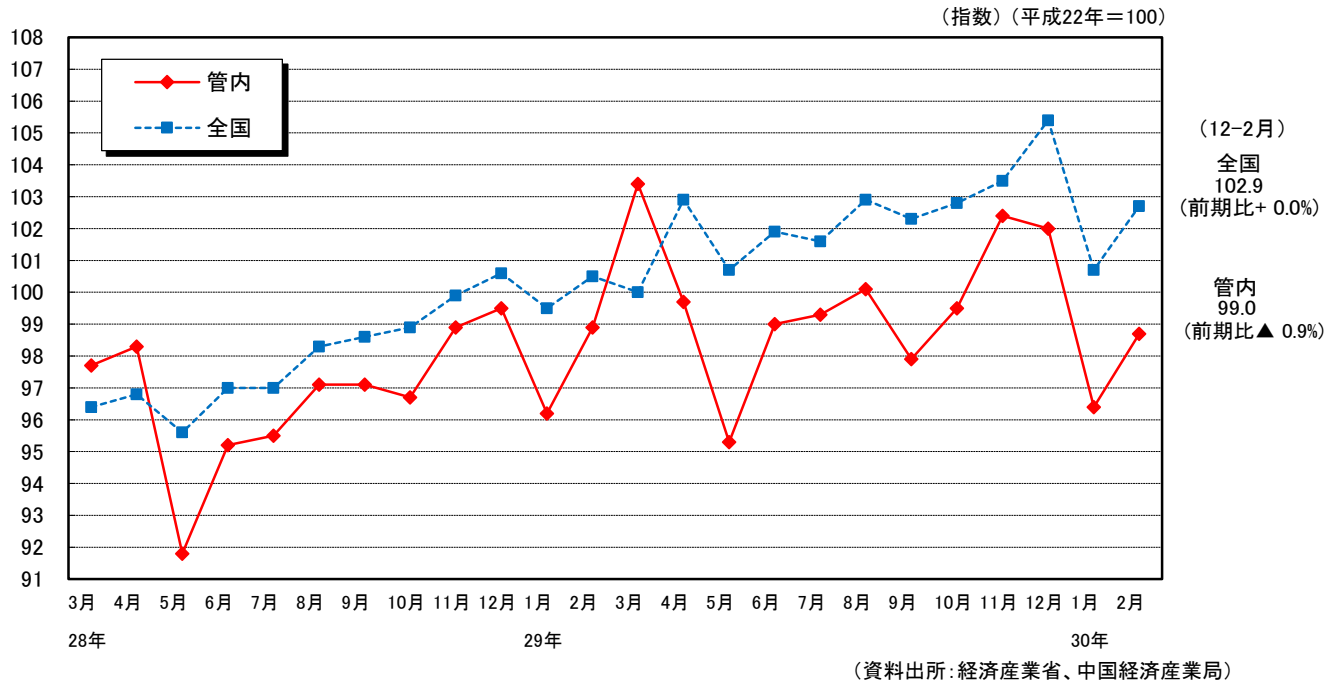
(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



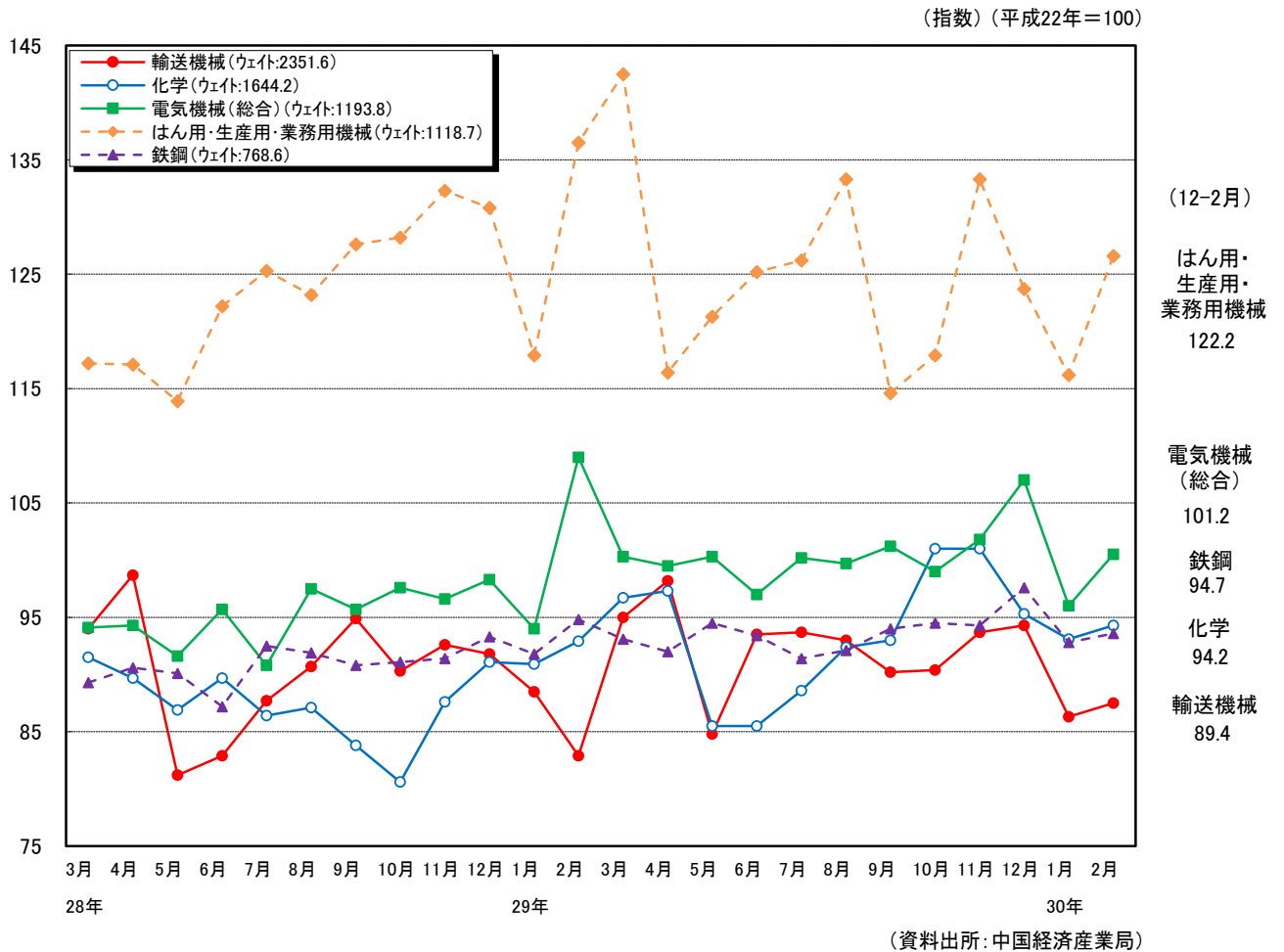
(資料出所: 中国運輸局)

## 2. 生産活動 緩やかに回復している

### (1) 鉱工業生産指数(季節調整値)



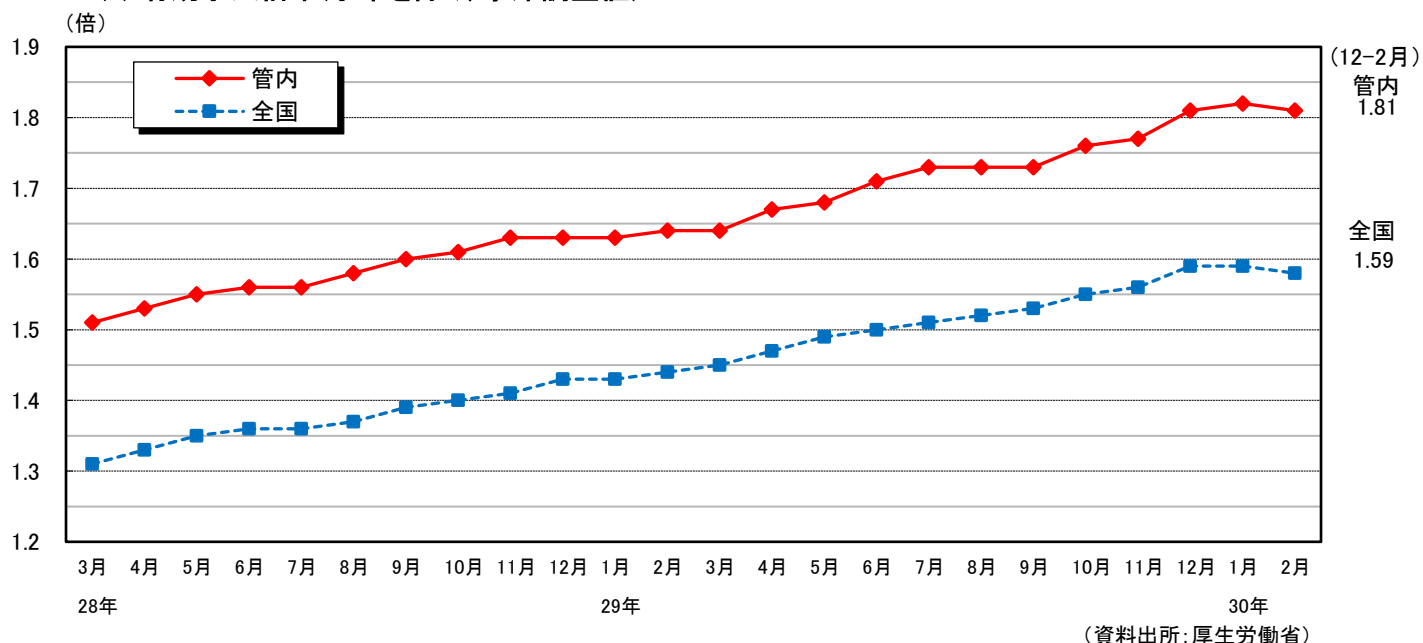
### (2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)



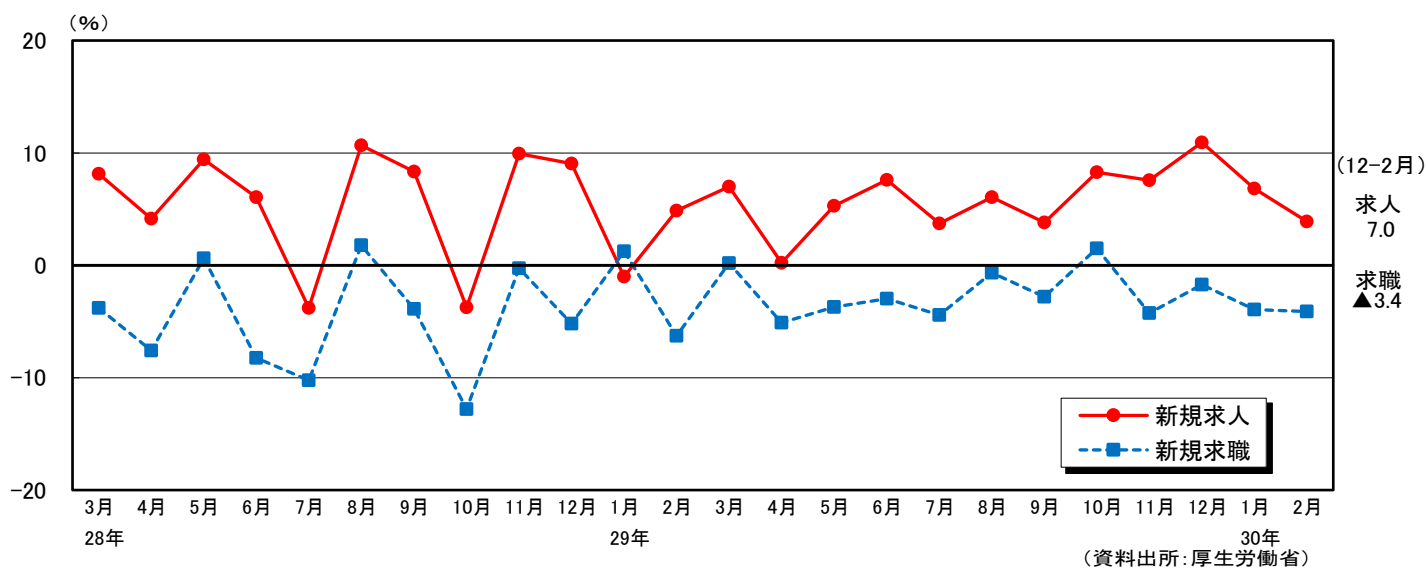


### 3. 雇用情勢 着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



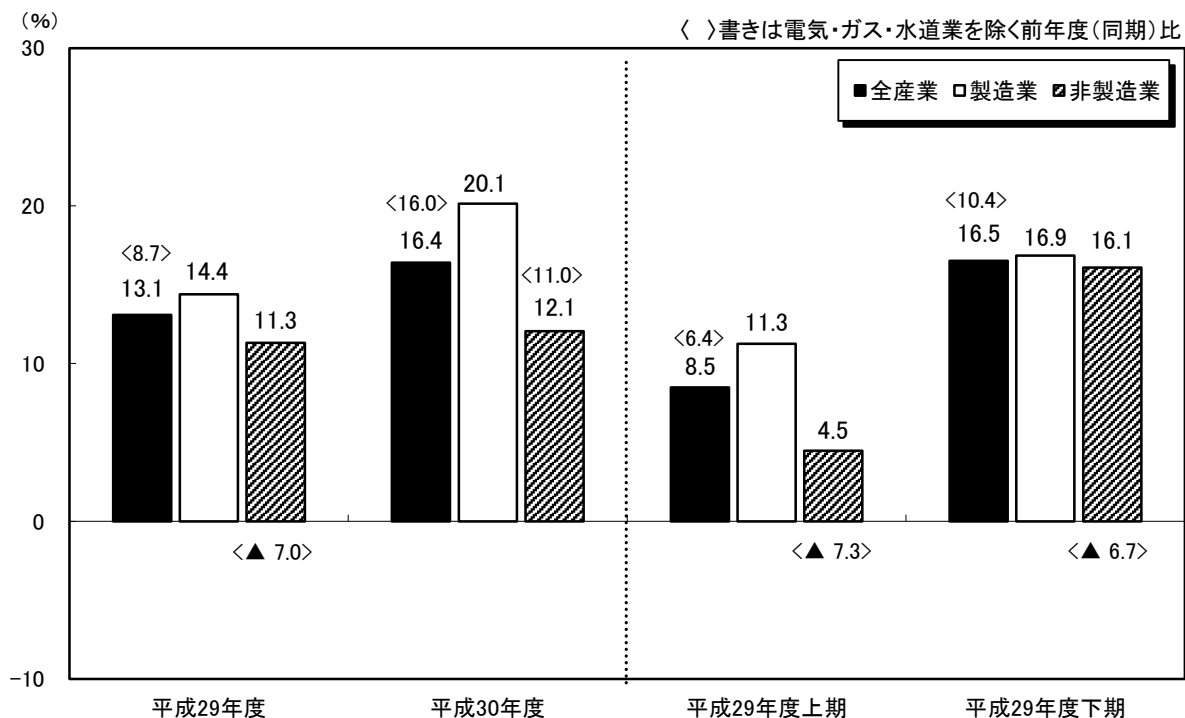
【参考】完全失業率(原数値)

区分	28年平均	29年平均	28.1~3	28.4~6	28.7~9	28.10~12	29.1~3	29.4~6	29.7~9	29.10~12
管内	2.8	2.5	2.9	2.9	3.2	2.3	2.5	2.7	2.6	2.3
全国	3.1	2.8	3.2	3.3	3.1	2.9	2.9	3.0	2.8	2.6

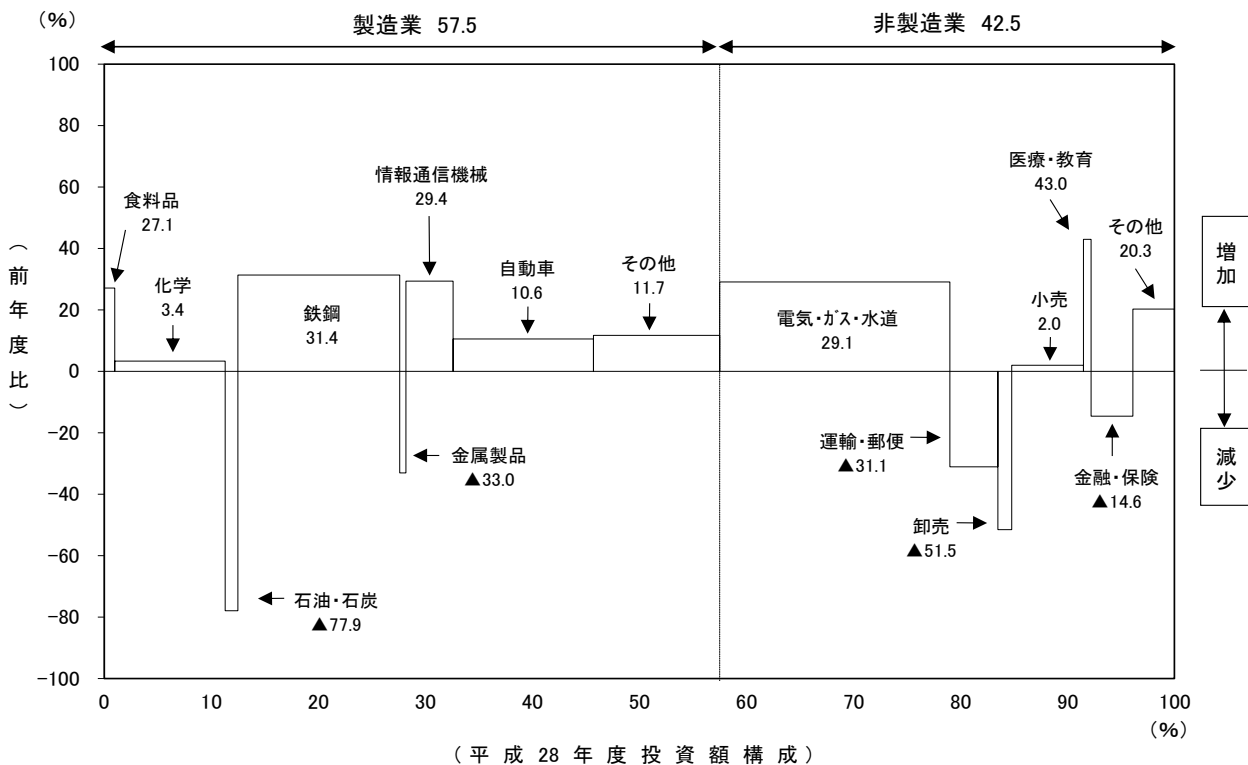
(資料出所:総務省)

## 4. 設備投資 平成29年度は前年度を上回る見込み

### (1) 設備投資額(前年度(同期)比)

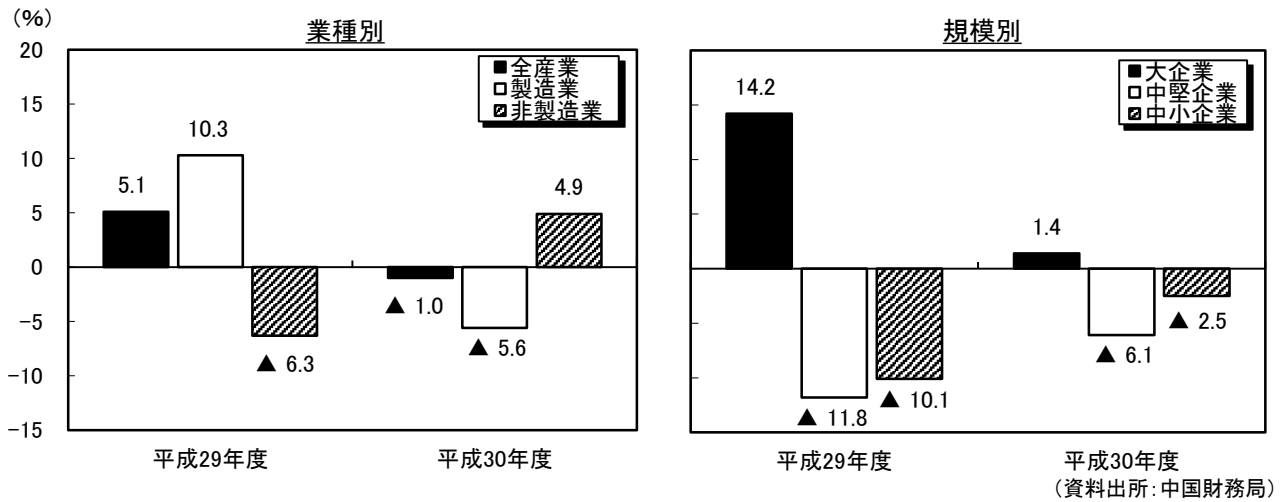


### (2) 主要業種別 (平成29年度)



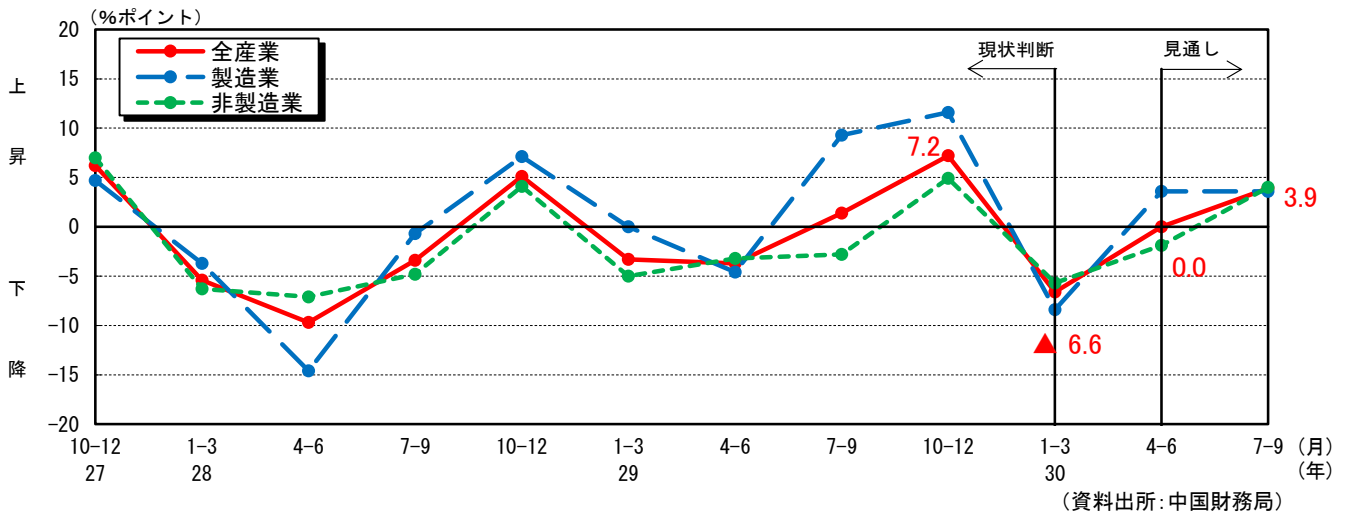
## 5. 企業収益 平成29年度は増益見込み

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く:前年度比)



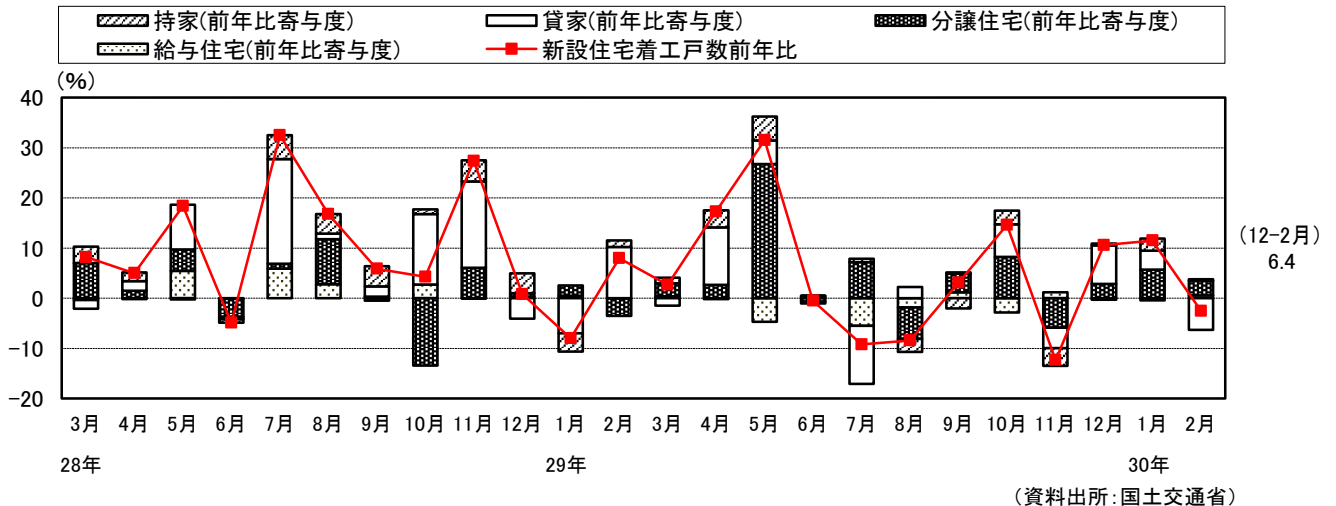
## 6. 企業の景況感 「下降」超に転じる

景況判断BSIの推移(原数値) (BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



## 7. 住宅建設 前年を上回る

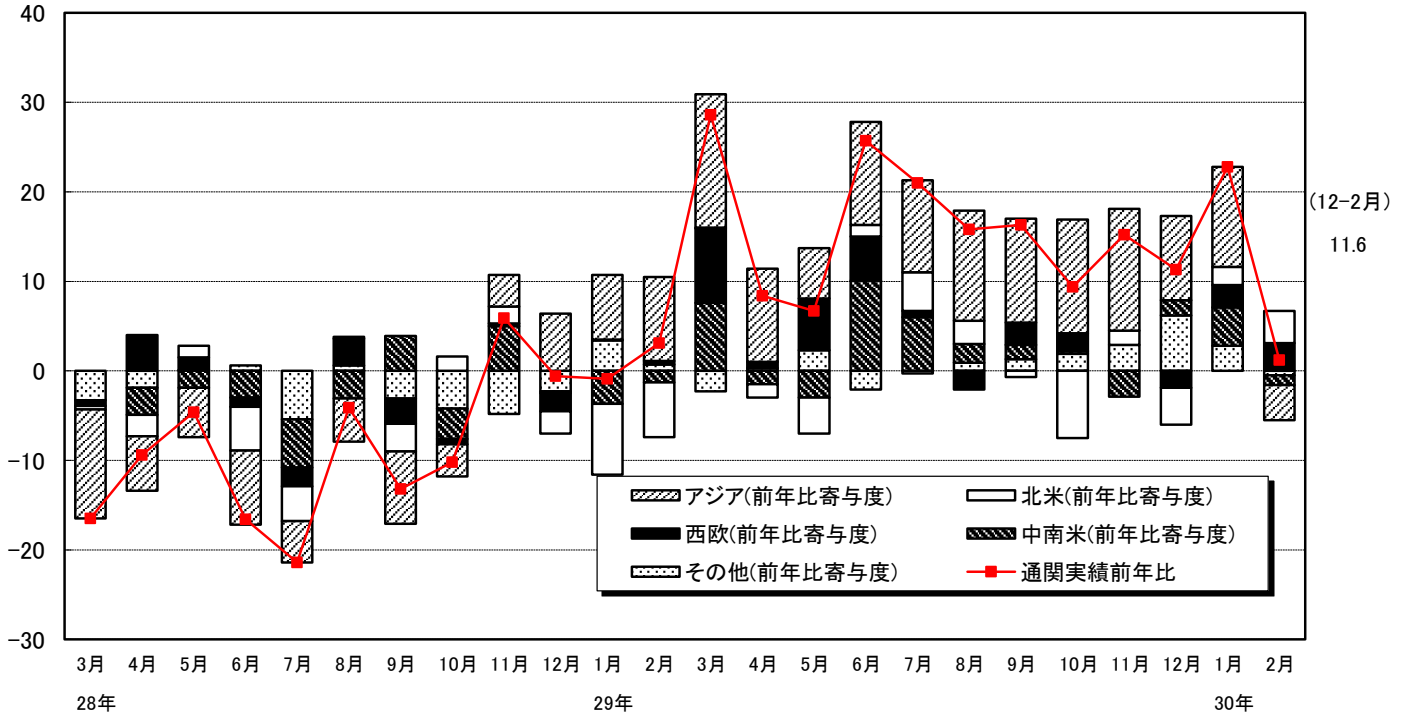
新設住宅着工戸数(前年比)



## 8. 輸出 前年を上回る

輸出(円ベース)

(%)



<参考>

輸入(円ベース)

(%)

